

【18】

氏名	伊藤光治
学位の種類	医学博士
学位授与番号	甲第85号
学位授与の日付	昭和37年3月31日
学位授与の要件	医学研究科外科系整形外科学専攻 (学位規則第5条第1項該当)
学位論文題目	リウマチ様関節炎の膝関節滑膜における立体組織地図的研究
論文審査委員	教授 児玉俊夫 教授 陣内伝之助 教授 大内 弘

学位論文内容要旨

リウマチ様関節炎の管理は、その病態の正確な把握が大切である。私はリウマチ様関節炎の膝関節滑膜を、平面的のみならず立体的に追求して、その病態を適格に把握する一助たらしめんとした。

すなわち、先ずリウマチ様関節炎の22膝関節の関節鏡検査を行い、滑膜表面の変化、主に絨毛の変化を探り、次いで正常膝関節滑膜にて、滑膜の代表的5部位を滑膜下疎性結合織及び Polley 式 Punch による滑膜組織片採取の難易を考慮して決定し、各部位における滑膜の型と滑膜下疎性結合織の深さを測定した。ひきつづきリウマチ様関節炎の23関節にて、滑膜切除に際し同様の5部位より滑膜片を採取し、その病理所見と病変の及ぶ深さを追求した。

その結果リウマチ様関節炎の膝関節に於ては、代表的5部位より直径2~3mmの組織片を Polley 式 Punch により採取することにより、その病態を適格に把握出来、治療指針の決定に有意義なことを明らかにした。

リウマチ 第4巻1号(37年7月)に掲載予定

論文審査の結果の要旨

伊藤光治提出の「リウマチ様関節炎の膝関節の滑膜切除術について」に関する学位論文につき審査した結果の要旨は次の通りである。

リウマチ様関節炎の膝関節の滑膜切除術については、報告書によりその成績が甚しく異っている。手術術式それ自体は大差ないので、結局はその適応の如何によるものと考えられる。

著者はリウマチ様関節炎の膝関節につき、関節鏡による鏡視と、 biopsy による組織学的検査及び滑膜切除術時の所見、さらにその予後を調査した。そして立体組織地図を作って滑膜切除術の適応を批判した。

滑膜切除術は滑膜におけるリウマチ性変化が頑症になり、組織学的に言えば濾胞状に淋巴球様細胞が集团的に浸出し、その周囲を結合織で包囲している型が適応となるが、その組織像は Polley 式 punchにより膝関節の内腔より 2～3 か所の組織片を採取すれば認めることができることを立証した。

以上の通り本論文は新しい知見に富み、学術上有益であり、著者は医学博士の学位を授与せられるべき学力を有すると認める。